

革新的がん医療実用化研究事業 令和7年度 事後評価実施課題一覧

※所属は、評価実施日時点

No.	開始年度	終了年度	研究開発代表者	所属機関	役職	研究開発課題名
【領域1】がんの本態解明に関する研究						
1	令和5年度	令和7年度	板橋 耕太	国立がん研究センター	ユニット長	腎細胞がんの免疫制御機構の理解に基づく新規免疫治療の開発
2	令和5年度	令和7年度	大谷 直子	大阪公立大学	教授	がん進展過程における疑似時間解析を利用したがん微小環境構成細胞間のネットワーク解明と新規治療標的の探索
3	令和5年度	令和7年度	荻原 秀明	国立がん研究センター	分野長	スキルス胃がんにおける標準治療抵抗性の克服に資する新規治療戦略
4	令和5年度	令和7年度	垣内 伸之	京都大学	特定准教授	発がん起源クローンの制御による食道がん予防法の開発
5	令和5年度	令和7年度	片岡 圭亮	国立がん研究センター	分野長	悪性リンパ腫における遺伝子異常・免疫微小環境の全体像および臨床的意義の統合的解明
6	令和5年度	令和7年度	片山 量平	がん研究会	部長	インターフェロン応答異常によるがん免疫療法耐性機構の解明と新規耐性克服併用療法の開発
7	令和5年度	令和7年度	清井 仁	名古屋大学	教授	PDX治療モデルと継時的臨床検体の統合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローンの克服に向けた治療戦略の構築に関する研究
8	令和5年度	令和7年度	小松 将之	実中研	室長代理	受容体の局在制御を基盤とした分子標的療法の開発
9	令和5年度	令和7年度	小山 正平	国立がん研究センター	部門長	がん細胞上の免疫抑制分子を標的とした分子標的-免疫一体型治療の樹立
10	令和5年度	令和7年度	坂田(柳元) 麻実子	筑波大学	教授	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の血管多様性の解明と治療戦略
11	令和5年度	令和7年度	柴田 龍弘	国立がん研究センター	分野長	国際共同研究に資する大規模日本人がんゲノム・オミックス・臨床データ統合解析とゲノム予防・医療推進
12	令和5年度	令和7年度	下田 和哉	宮崎大学	教授	ATL新規治療標的の同定と、個別化医療への展開
13	令和5年度	令和7年度	白石 友一	国立がん研究センター	分野長	ゲノム医療と創薬に資するスプライスサイト生成変異の探索基盤の開発
14	令和5年度	令和7年度	鈴木 洋	名古屋大学	教授	造血器腫瘍における多階層オミックス解析に基づくRNA修飾を標的としたがん治療プラットフォームの開発
15	令和5年度	令和7年度	田中 広祐	国立がん研究センター	研究員	DNA損傷応答を標的としたKRAS阻害薬の耐性克服を目指す肺がん治療開発
16	令和5年度	令和7年度	中山 敬一	東京科学大学	特別名誉教授	難治性がんを標的とした代謝酵素阻害薬の創出
17	令和5年度	令和7年度	馬場 泰輔	名古屋大学	病院助教	がん悪液質に伴う代謝異常に基づく早期膵癌・胆道癌診断AIの開発
18	令和5年度	令和7年度	平野 秀和	国立がん研究センター	医員	生検検体プロテオーム解析によるRAS野生型転移性大腸がんの抗EGFR抗体耐性機構の解明と新規治療標的の探索
19	令和5年度	令和7年度	平林 茂樹	九州大学	助教	遺伝性血液腫瘍の発症に関わる病的バリエーションの網羅的な同定
20	令和5年度	令和7年度	森 泰昌	国立がん研究センター	医長	造血幹細胞移植後の二次性固形癌から得られたゲノム変異による個別化医療の確立と臨床的妥当性の検証
21	令和5年度	令和7年度	谷内田 真一	大阪大学	教授	大腸癌超ハイリスク群における便ならびに生検組織を用いた腸内環境理解に基づく大腸癌個別化予防法の開発
【領域2】がんの予防法や早期発見手法に関する研究						
1	令和5年度	令和7年度	青木 大輔	国際医療福祉大学	教授	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究
2	令和5年度	令和7年度	石田 孝宣	東北大学	客員教授/名誉教授 学術研究員	超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験
3	令和5年度	令和7年度	岩崎 基	国立がん研究センター	部長	生体内の酸化・抗酸化バランスに着目した個人の発がんリスク評価方法の革新的改善に資する疫学研究の推進
4	令和5年度	令和7年度	上田 豊	大阪大学	講師	HPVワクチンの長期的効果およびキャッチアップ接種の有効性の評価のための大規模疫学研究
5	令和5年度	令和7年度	岸川 孝弘	東京大学	助教	血中反復配列RNAの高感度検出法を基盤とした早期膵癌診断戦略の構築
6	令和5年度	令和7年度	工藤 進英	昭和医科大学	センター長	対策型検診を目指した大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験

No.	開始年度	終了年度	研究開発代表者	所属機関	役職	研究開発課題名
7	令和5年度	令和7年度	澤田 典絵	国立がん研究センター	部長	無症候中高年集団におけるヘリコバクター・ピロリ菌の最適な除菌効果を評価するための長期追跡研究
8	令和5年度	令和7年度	武藤 倫弘	京都府立医科大学	教授	家族性大腸腺腫症の重症化リスク低減手法の実用化を目指した臨床介入検証
9	令和5年度	令和7年度	桃沢 幸秀	理化学研究所	副センター長	23がん種14万人を用いた遺伝・環境・生活習慣を統合した各個人の疾患リスクの推定
10	令和5年度	令和7年度	谷内田 真一	大阪大学	教授	膵癌ハイリスク群を対象とした「胃カメラしながら膵がん検診」の社会実装に向けた前向き追跡研究
11	令和5年度	令和7年度	山田 晴美	星薬科大学	特任助教	ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エピゲノム発がんリスク診断の実用化
【領域3】 アンメットメディカルニーズに応える新規薬剤開発に関する研究						
1	令和5年度	令和7年度	柏原 大朗	国立がん研究センター	医員	L型アミノ酸トランスポーター（LAT1）陽性腫瘍へのホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の適応拡大に向けたオールジャパンでのバスケット型治験実現のための、コンパニオン診断薬確立を目指す研究
2	令和5年度	令和7年度	片桐 豊雅	医薬基盤・健康・栄養研究所	研究所長	がん抑制因子活性化を利用した治療耐性難治性乳がんに対する治療薬開発のための製剤化検討
3	令和3年度	令和7年度	加藤 大悟	大阪大学	講師	SCRUM-Japan MONSTAR-SCREENプロジェクト基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づく相同組換え遺伝子変異を有する固形がんに対する医師主導治験
4	令和5年度	令和7年度	小早川 雅男	福島県立医科大学	教授	At-211 MABGの褐色細胞腫/パラガングリオーマ患者における薬物動態、安全性および有効性に関する第I相試験
5	令和5年度	令和7年度	近藤 豊	名古屋大学	教授	新規核酸治療薬を用いた膠芽腫に対する臨床試験に関する研究
6	令和5年度	令和7年度	高橋 義行	名古屋大学	教授	再発・難治性悪性リンパ腫に対するpiggyBacトランスポゾン法によるCD19キメラ抗原受容体遺伝子改変自己T細胞の安全性及び有効性に関する第1/2相医師主導治験
7	令和5年度	令和7年度	戸田 正博	慶應義塾大学	教授	ゲノム編集iPS細胞由来神経幹細胞を用いた悪性神経膠腫に対する遺伝子幹細胞療法の実用化開発
8	令和5年度	令和7年度	中沢 洋三	信州大学	教授	CD116 陽性急性骨髄性白血病および若年性骨髄単球性白血病を対象とする非ウイルス遺伝子改変GMR CAR-T 細胞のFIH 医師主導治験
9	令和5年度	令和7年度	萩原 正敏	京都大学	特任教授	スプライスネオ抗原誘導剤による頭頸部のがん免疫増強療法開発研究
10	令和5年度	令和7年度	橋本 直佳	国立がん研究センター	医員	分子標的治療薬の多標的化に先駆けた網羅的RNA解析に基づくCLDN18.2高発現を有する治療切除不能な進行・再発固形がんに対する抗CLDN18.2抗体薬物複合体医師主導治験
11	令和5年度	令和7年度	保仙 直毅	大阪大学	教授	同種造血幹細胞移植後再発急性骨髄性白血病患者に対する新規CAR-T細胞の開発
12	令和5年度	令和7年度	吉松 賢太郎	株式会社凜研究所	取締役	抗不溶性フィブリン抗体抗がん剤複合体による浸潤がん治療を目指した研究開発
13	令和5年度	令和7年度	渡邊 慶介	国立がん研究センター	主任研究員	T細胞性腫瘍に対するCART細胞療法の医師主導治験
【領域4】 患者に優しい新規医療技術開発に関する研究						
1	令和5年度	令和7年度	秋元 哲夫	東京慈恵会医科大学	臨床専任教授	頭頸部扁平上皮癌に対する強度変調陽子線治療の実用化に向けた技術開発と有効性検証
2	令和5年度	令和7年度	天野 日出	名古屋大学	病院助教	神経芽腫及び褐色細胞腫における3-Methoxytyramine sulfate/3-Methoxytyramine定量技術の確立と実用化
3	令和5年度	令和7年度	飯間 麻美	名古屋大学	特任教授	拡散MRIを用いた新規がんトランススケールイメージング法の開発
4	令和5年度	令和7年度	小原 英幹	香川大学	教授	子宮頸がん診断における画像強調併用拡大軟性内視鏡の実装化を目指した研究
5	令和5年度	令和7年度	斎藤 豊	国立がん研究センター	科長	高精細内視鏡画像と切除後病理画像を用いた早期大腸がん最深部の三次元構造推定AIの開発
6	令和5年度	令和7年度	田岡 和城	東京大学	特任准教授	眼内リンパ腫におけるPrecision Medicineのための低侵襲性遺伝子パネル診断キットの実用化
7	令和5年度	令和7年度	田中 將太	岡山大学	教授	脳腫瘍に対する局所投与型新規蛍光プローブの実用化に向けた非臨床試験および医師主導治験
8	令和5年度	令和7年度	土屋 直人	国立がん研究センター	ユニット長	微量手術検体の迅速検査による早期非小細胞肺癌再発リスク診断法の開発
9	令和5年度	令和7年度	西塚 哲	岩手医科大学	特任教授	個別化デジタルPCRによる超高感度腫瘍由来循環DNAモニタリング
10	令和5年度	令和7年度	藤田 武郎	国立がん研究センター	科長	AIを用いた食道がん手術における術中反回神経認識支援システムの研究開発

No.	開始年度	終了年度	研究開発代表者	所属機関	役職	研究開発課題名
11	令和5年度	令和7年度	向井 博文	国立がん研究センター	医長	HER2陽性乳癌に対する手術省略を目指した医療機器の開発研究
12	令和5年度	令和7年度	村上 祐司	広島大学	教授	早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験
【領域5】 新たな標準治療を創るための研究						
1	令和5年度	令和7年度	荒井 保典	国立がん研究センター	医長	有痛性骨転移患者の疼痛制御のための即効性を有する新規治療開発
2	令和5年度	令和7年度	岡田 守人	広島大学	教授	臨床病期I/II期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験
3	令和5年度	令和7年度	岡田 守人	広島大学	教授	特発性肺線維症（IPF）合併臨床病期I期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第III相試験
4	令和5年度	令和7年度	奥坂 拓志	国立がん研究センター	肝胆膵内科長	切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタピン+シスプラチン+S-1（GCS）療法の第III相試験
5	令和5年度	令和7年度	金光 幸秀	国立がん研究センター	科長/副院長	下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy（TNT）および watch and wait strategyの第II/III相単群検証的試験
6	令和5年度	令和7年度	金光 幸秀	国立がん研究センター	科長/副院長	再発低リスク大腸癌患者における根治切除後のレスインテンシブなサーベイランスの単群検証的試験（JCOG1915）
7	令和5年度	令和7年度	賀本 敏行	宮崎大学	教授	High volume転移を認める前立腺癌患者に対する局所放射線治療を併用する標準治療の確立と治療効果予測マーカーの開発
8	令和5年度	令和7年度	北川 雄光	慶應義塾大学	教授	早期胃癌に対するセンチネルリンパ節生検を用いた個別化、縮小手術の安全性と有効性を検証することを目的とした検証的多施設共同第3相試験
9	令和5年度	令和7年度	國頭 英夫	日本赤十字社医療センター	部長	70歳以上の上皮性増殖因子受容体活性化変異陽性未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの至適投与量に関する多施設共同研究
10	令和5年度	令和7年度	後藤 悌	国立がん研究センター	呼吸器内科長	非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第III相試験
11	令和5年度	令和7年度	佐藤 豊実	筑波大学	教授	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験
12	令和5年度	令和7年度	塩野 知志	山形大学	准教授	病理病期II、III期非小細胞肺癌に対する術後surveillanceに関するランダム化比較試験
13	令和5年度	令和7年度	高島 淳生	国立がん研究センター	医長	Stage III治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験
14	令和5年度	令和7年度	田部 宏	国立がん研究センター	科長	ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌I期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第III相比較試験
15	令和5年度	令和7年度	坪佐 恭宏	静岡県立静岡がんセンター	副院長兼食道外科部長	臨床病期I-IVA（T4を除く）胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験
16	令和5年度	令和7年度	寺島 雅典	静岡県立静岡がんセンター	副院長	cT1-4aN0-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験
17	令和5年度	令和7年度	寺島 雅典	静岡県立静岡がんセンター	副院長	局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する第III相試験
18	令和6年度	令和7年度	永井 宏和	名古屋医療センター	副院長	未治療低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ早期介入に関するランダム化比較第3相試験
19	令和5年度	令和7年度	藤澤 知巳	群馬県立がんセンター	部長	薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有効性に関する単群検証的試験
20	令和5年度	令和7年度	北條 隆	埼玉医科大学	教授	早期転移発見による予後の向上を目指した乳がん術後の新たな標準的フォローアップ法開発に関する研究
21	令和5年度	令和7年度	松岡 弘道	国立がん研究センター	科長/部門長	がん患者のオピオイド不応の神経障害性疼痛への標準的薬物療法の開発：国際共同試験ならびに普及実装に向けた研究
22	令和5年度	令和7年度	松元 崇	九州大学	講師	進行腎細胞癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第III相試験
【領域6】 ライフステージやがんの特性に着目した重点研究						
1	令和5年度	令和7年度	荒川 芳輝	京都大学	教授	高齢者初発膠芽腫に対する分子分類に応じたテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発
2	令和5年度	令和7年度	上野 誠	神奈川県立がんセンター	部長	切除不能膀胱癌に対する標準治療の確立に関する研究
3	令和5年度	令和7年度	海野 倫明	東北大学	教授	高齢者切除可能膀胱癌に対する術前ゲムシタピン+S-1療法と術前ゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法のランダム化比較第III相試験
4	令和5年度	令和7年度	齋藤 竜太	名古屋大学	教授	小児上衣腫に対する手術摘出度と分子学的マーカーを用いた治療層別化による集学的治療の安全性と有効性確立に向けた研究開発

No.	開始年度	終了年度	研究開発代表者	所属機関	役職	研究開発課題名
5	令和5年度	令和7年度	堺田 恵美子	千葉大学	准教授	小児から成人を対象にする臨床試験によるT細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用限界年齢の検討と新規バイオマーカー探索に関する研究
6	令和6年度	令和7年度	坂口 大俊	国立成育医療研究センター	診療部長	小児および若年成人の造血器腫瘍に対する同種造血細胞移植における移植後シクロホスファミドを用いた移植片対宿主病予防の確立に関する研究
7	令和5年度	令和7年度	塩田 曜子	国立成育医療研究センター	医長	小児および成人組織球症に対する晩期合併症阻止を目指した新規治療法と長期フォローアップの研究開発
8	令和5年度	令和7年度	園田 順彦	山形大学	教授	造形病変安全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究☒
9	令和5年度	令和7年度	富澤 大輔	国立成育医療研究センター	診療部長	小児急性骨髄性白血病の標準的治療法の確立のための臨床研究
10	令和5年度	令和7年度	成田 善孝	国立がん研究センター	科長	がん幹細胞を標的とした初発膠芽腫の放射線+テモゾロミド+メトホルミン併用療法の第I・II相臨床試験
11	令和5年度	令和7年度	仁保 誠治	獨協医科大学	教授	進展型小細胞肺癌に対する新たな治療開発を目指した研究
12	令和5年度	令和7年度	服部 浩佳	名古屋医療センター	医長	がん遺伝的素因を有する小児・AYA世代の先制医療体制構築を目指したLi-Fraumeni症候群におけるがんサーベイランスの実用化のためのイメージング方法および新規バイオマーカーの開発に関する研究
13	令和5年度	令和7年度	日比 泰造	熊本大学	教授	切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植
14	令和5年度	令和7年度	檜山 英三	広島大学	特任教授	小児胎児性固形がんに対する標準的治療法開発
15	令和5年度	令和7年度	福田 隆浩	国立がん研究センター	科長	アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究
16	令和6年度	令和7年度	藤森 麻衣子	国立がん研究センター	室長	高齢進行・再発がん患者のニーズに即した治療選択・継続のためのアプリケーションを活用した高齢者機能評価とマネジメント強化による支援プログラム開発：フォローアップ研究
17	令和5年度	令和7年度	本間 明宏	北海道大学	教授	進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究
18	令和5年度	令和7年度	松本 和幸	岡山大学	講師	膵神経内分泌腫瘍に対する治療率向上と膵機能温存を目指した内視鏡的低侵襲治療法の開発
19	令和5年度	令和7年度	村松 秀城	名古屋大学	准教授	「若年性骨髄球性白血病（JMML）に対する標準的化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発
20	令和5年度	令和7年度	山内 高弘	福井大学	教授	高齢者急性骨髄性白血病の適応症例に対する強力化学療法を用いた第II相臨床試験:JALSG-GML219、非適応症例に対するベネトクラクス+アザシチジンを用いた第II相臨床試験:JALSG-GML225
21	令和5年度	令和7年度	山崎 夏維	大阪市立総合医療センター	医長	髄芽腫、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究